

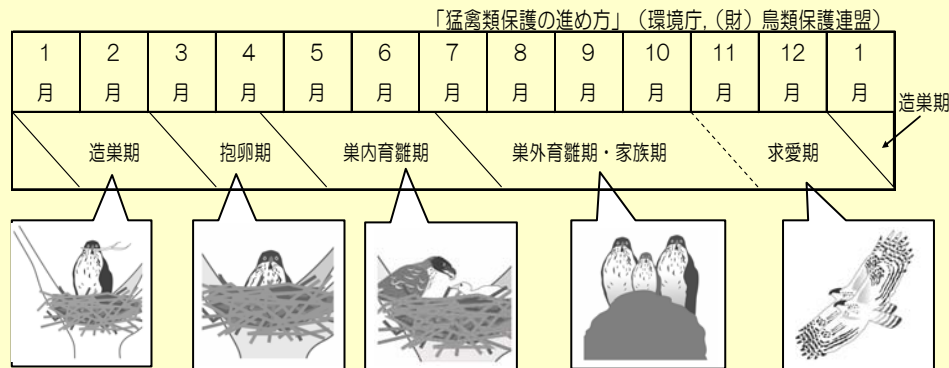
# クマタカ(猛禽類)の調査

川辺川ダム事業では、食物ピラミッドの頂点に位置するクマタカ(猛禽類)の調査を平成5年より定期的に行い、クマタカの生息と繁殖活動の継続が図られるよう専門家による指導・助言のもと適切な保全対策を実施しています。

クマタカが生息しているということは、クマタカの生命を支えるのに十分な餌動物がいるということになり、さらにその餌動物を支える豊かな自然があるということとなります。



## ●クマタカの生活史



## ●クマタカの調査実施状況

希少な猛禽類(クマタカ)を驚かすことのないように目立たない服装で遠くから観察を実施しています。



## ●クマタカの繁殖状況

川辺川ダム事業区域に関連するものとして、8つがいの生息を確認しています。

繁殖シーズン つがい	H5 ~ H6	H6 ~ H7	H7 ~ H8	H8 ~ H9	H9 ~ H10	H10 ~ H11	H11 ~ H12	H12 ~ H13	H13 ~ H14	H14 ~ H15	H15 ~ H16	H16 ~ H17	H17 ~ H18	H18 ~ H19	H19 ~ H20
	Aつがい	x	-	x	●	●	x	○	x	●	x	○	●	x	x
Bつがい	x	-	●	x	●	●	●	x	x	●	x	x	○	○	●
Cつがい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	x	x	x	●	x	●
Dつがい	x	-	x	●	x	●	x	x	x	●	x	x	●	x	x
Eつがい	x	-	x	●	●	x	x	○	○	●	x	○	x	x	x
Fつがい	-	-	-	-	●	x	x	x	x	x	●	x	x	x	x
Jつがい	-	-	-	-	-	x	●	x	○	○	x	x	x	x	x
Kつがい	-	-	-	-	-	x	x	x	x	x	x	●	x	x	x

- : 幼鳥又は雛を確認
- : 幼鳥又は雛を確認できなかったが、抱卵姿勢又は抱雛姿勢を確認した。
- x : 幼鳥又は雛も抱卵姿勢又は抱雛姿勢も確認できなかった。
- : 成鳥(各つがいの個体)を未確認

繁殖シーズン : (例) H19~H20=H19年の求愛期(H19年11月)  
~巢外育雛期・家族期(H20年10月)

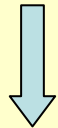
# クマタカ(猛禽類)の保全

川辺川ダム事業では、クマタカの生息と繁殖活動の継続が図られることを目標としています。そのことからクマタカへの影響の把握や適切な保全措置を講じるため、工事の実施内容やダム完成後の各施設の状況、事業区域及びその周辺における生息・営巣環境の状況等を踏まえ、

- ①事業に伴うつがいの生息と繁殖活動
- ②事業に伴うつがい以外の個体(つがいを形成していない成鳥や亜成鳥など)の生息について予測把握しています。

## ●クマタカへの影響予測の手順

- ①つがいの生息と繁殖活動
  - a.クマタカの行動圏の内部構造
  - b.クマタカの営巣環境
  - c.クマタカの狩り場
  - d.クマタカの巣からの距離や見通し
- ②つがい以外の個体の生息
  - a.クマタカの狩り場



← 保全措置の実施

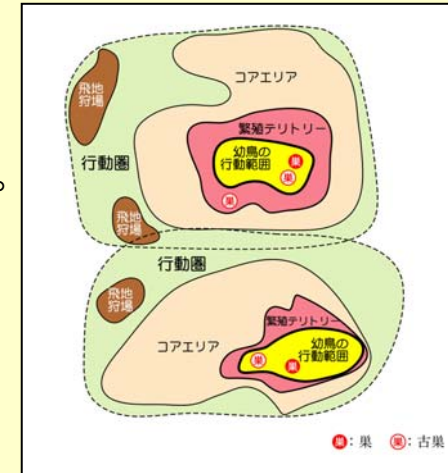
事業区域との重ね合わせにより、クマタカの生息・営巣環境への影響を予測



## ●クマタカの行動圏の内部構造とは...

クマタカの行動圏は、その一年の利用期間によりコアエリア、繁殖テリトリー、幼鳥の行動範囲の3つに分類され考えています。

内部構造	定義
行動圏	一年を通じて利用される範囲
コアエリア	全行動圏の中で、1年を通じて、よく利用し、相対的に利用率の高い範囲。
繁殖テリトリー	繁殖期に設定される範囲であり、他のクマタカの侵入を防衛する範囲
幼鳥の行動範囲	巣立ち後の幼鳥が独立するまでの生活場所



注)クマタカ・その保護管理の考え方(マ幼生態研究グループ,平成12年)を基に作成。

## ●クマタカの保全対策の例 (付替道路のルート変更)

クマタカへの影響を極力小さくするため、付け替え道路のルートを変更しました。その結果、付け替え道路を巣から極力離すとともに、自然地形の改変面積を60%減少することができました。

